



美しい歌声を披露する中川出身の坂本さん(中央)

### ふるさとへの思いをのせて スバルでクラシックコンサート

中川出身のソプラノ歌手・坂本美恵さんと、チェロ奏者・中務幸彦さん、ピアニスト・高岡多恵子さんを迎えて6月2日、文化交流センタースバルで「ふるさとへ」と題したクラシックコンサートが開かれました(実行委員会主催、山口ひとみ実行委員長)。坂本さんは高く澄んだ声でオペラや日本の歌などを歌い上げ、「故郷で歌うのが夢だった。感謝を込めて歌った」と感激した様子で語っていました。



有友豊さんの指揮で五十崎中学校吹奏楽部生徒が共演

### 五十崎中学校吹奏楽部と共演 松山市民吹奏楽団内子公演

松山市民吹奏楽団(大西清文団長)の内子公演は6月3日、内子町共生館で開かれました。同楽団は平成12年から毎年、県内各地で演奏会を開いており、地元の学生などと共演しています。内子公演には五十崎中学校吹奏楽部(井上陽子顧問、部員17人)が出演。同部の水成友紀さん(2年生)は、「私たちの部は人数が少ないので、大勢の中で演奏できて楽しかった」と感想を述べました。



笹原とツルギミツバツツジが広がる笠取山

### 360度のパノラマが広がる笠取山で 自然の美しさと雄大さを実感

町は、小田深山の保全と活用を考える「せんの森プロジェクト」の一環として6月3日、笠取山の散策ツアーを行いました。町内外から約60人が参加し、NPO法人OD Aの木協会・高本師津雄さんの案内で、真っ赤なツルギミツバツツジが咲く雨上がりの尾根を散策。参加者は、「内子町にこんな場所があったとは」と、その眺望に感嘆の声を上げていました。



ホタルかご作りに挑戦する三浦さん(右)

### 麦わらで昔ながらのホタルかご作り 立石自治会ホタル祭り

立石自治会(池田慎一自治会長)は6月9日、同自治会館でホタル祭りを開きました。参加者はまず、小麦のわらを編んで作る昔ながらのホタルかご作りに挑戦。初めて体験したという三浦咲希帆さん(小田小1年)は、「ねじって編んでいくのが難しかった」と話していました。その後、県環境マイスター・松田久司さんと共に立石川付近のホタルを観察し、幻想的な光景を楽しみました。

### 町内の芸達者が自慢の演芸を披露 内子町文化協会芸能発表会

内子町文化協会に所属するさまざまな演芸団体が一堂に会し日頃の練習で磨いた自慢の演技を披露する、恒例の芸能発表会が5月、内子地区と五十崎地区で開かれました。

内子支部(谷野文子支部長)の発表会は20日、内子座で開かれ、19団体が参加。今年は例年以上に子どもたちの出演が多く、会場からは温かな声援が送られました。谷野支部長は、「大人になっても、この芸能発表会で演技してくれることを期待したい」と話していました。

五十崎支部(稲月功支部長)の発表会は27日、内子町共生館で開かれ、15団体が参加。子どもから高齢者まで幅広い年齢層の出演者たちが、生き生きとした演技で会場を沸かせました。稲月支部長は、「大勢の観客の中、みんな普段の練習の成果を存分に発揮する良い演技を披露していた。良い芸能発表会になった」と、会の成功を喜んでいました。



1\_元気いっぱいのちびっこ和太鼓サークル「和奏」  
2\_内子高校郷土芸能部OBらによる和太鼓集団「和達」

### 都市部との交流生かして棚田を守る 泉谷地区棚田オーナーが田植え

泉谷地区棚田を守る会(上岡満榮会長)は5月27日、棚田オーナーによる田植えを行いました。

守る会では、棚田百選にも選ばれた美しい景観を守るとともに、都市部の人たちとの交流を通して地域の活性化を図ろうと、平成16年からオーナー制度による米作り体験を行っています。上岡会長は、「地域の過疎が進んでいるが、たくさんの方が参加してくれてうれしい。活気づけるために頑張っていきたい」と話していました。



約9組のオーナーが、昔ながらの手植えを体験

### 住民の絆を結んだ映画「ふるさとがえり」 内子座で上映会とトークショーを開催

岐阜県恵那市を舞台とした映画「ふるさとがえり」の上映と監督・林弘樹さんのトークショー(実行委員会主催、佐藤友佳里実行委員長)が5月27日、内子座で開かれました。この映画は、合併後なかなか地域の交流が進まない同市で、映画作りを通じて絆を強めようと、市民約56,000人が参加し6年余りの歳月をかけて制作したもの。林監督のトークショーでは、観客からの質問を交えつつ、制作の苦労話や作品に込めた思いなどが語られました。



トークショーの舞台に立つ佐藤実行委員長と林監督(右)